使い方（保護者向け）

このプリントでできること

- 1枚目は、あいうえお表（50音表）です。下に、濁音（が）・半濁音（ぱ）の表もあります。書くときの手本として横に置いたり、壁に貼ったりして使えます。
- 2〜6枚目で、清音のひらがな46字（あ〜ん）を1字ずつ、手本を見て・なぞって・自分で書きます。7枚目は、2〜3字のことばを書きます。
- 手本の文字は、教科書に近い形の書体（教科書体）です。練習のシート（2〜7枚目）には、濁音・半濁音・小さい字（ゃ・っ）は入っていません。

進め方

- 1回に1枚の半分くらい、5〜10分を目安にします。1枚を1日で終える必要はありません。
- 最初に手本を指でなぞってから、鉛筆でうすい字をなぞります。なぞるときは、はみ出しても構いません。
- 自分で書くますは、全部うめなくて大丈夫です。手本と見比べて、似ているところを一緒に見つけてください。
- 名前に使う字や、子どもが書きたがる字から始めても構いません。順番どおりに進める必要はありません。

気をつけること

- このプリントには書き順の番号を載せていません。書き順に迷う字は、学校の教科書に合わせてください。
- 左右が逆の字や、形がくずれた字があっても、その場で何度も書き直させなくて大丈夫です。手本と並べて「ここが違うね」と一緒に見る程度にします。
- 嫌がるときは、その日はやめます。幼稚園教育要領の解説は、文字を「生活と切り離した形で覚え込ませる画一的な指導ではなく」、興味に合わせて読み書きの楽しさを感じる経験を重ねることが大切だとしています。

学校で習うこととのつながり

- 小学校の学習指導要領の解説は、ひらがなは「第1学年でその全部の読み書きができるようにする必要がある」としています。教科書では、1年の4月ごろにひらがなを書く単元が置かれています（扱う時期は学校によって異なります）。
- 入学前に全部書けている必要はありません。年長のうちは、自分の名前や身近なことばを書いてみる経験を大切にしてください。

次に

- 国語で習うこと（年長〜小2）：文字と言葉の見通し
- 家庭学習の記録表：取り組んだ時間と子どもの様子を1週間記録
- 6問で教材の候補を絞る：紙かタブレットか、親の作業はどれくらいか

この教材は まなびほどき編集部が独自に作成したものです。市販教材の転載・言い換えではありません。学習効果を保証するものではなく、お子さんの能力を判定するものでもありません。